

20医大医 第9号
平成20年10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者 公立大学法人福島県立医科大学

理事長 菊地 臣一

公立大学法人福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	72.1人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	288人	111.0人	399.0人	看護業務補助	30人	診療エックス線技師	人
歯科医師	3人	4.8人	7.8人	理学療法士	4人	臨床検査技師	55人
薬剤師	29人	0人	29.0人	作業療法士	人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	4人	歯科その他の	人
助産師	33人	0人	33.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	585人	31人	588.1人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	8.3人
准看護師	8人	0.9人	8.9人	栄養士	人	その他の技術員	1.8人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	人	事務職員	62人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	40人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	627.8人	4.0人	631.8人
1日当たり平均外来患者数	1,762.5人	32.5人	1,795.0人
1日当たり平均調剤数		822.0剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	(有)・無	6人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	(有)・無	3人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	61人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	(有)・無	2人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31発一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	(有)・無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	(有)・無	3人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	(有)・無	2人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宫体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	1人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	3人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	6人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	78人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	24人
・多発性硬化症	37人	・ウェゲナー肉芽腫症	15人
・重症筋無力症	57人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	55人
・全身性エリテマトーデス	173人	・多系統萎縮症	11人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人
・再生不良性貧血	47人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	65人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・原発性胆汁性肝硬変	55人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	99人	・重症急性膵炎	4人
・特発性血小板減少性紫斑病	71人	・特発性大腿骨頭壊死症	36人
・結節性動脈周囲炎	20人	・混合性結合組織病	27人
・潰瘍性大腸炎	99人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	24人	・特発性間質性肺炎	30人
・ビュルガー病	10人	・網膜色素変性症	18人
・天疱瘡	13人	・プリオント病	1人
・脊髄小脳変性症	32人	・原発性肺高血圧症	4人
・クローン病	25人	・神経線維腫症	8人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	19人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・ペーキンソン病関連疾患	102人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	11人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4人
・後縦靭帯骨化症	59人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月4回程度	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 70 例	剖検率 24.2 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
単球接着による血管内皮細胞でのシグナル伝達・遺伝子発現調節機構に関する研究	阪本貴之	第一内科	1600千円	補委 文部科学省科学研究費
慢性炎症関連分子ヘプシンの心不全増悪への関与の検討	国井浩行	第一内科	600千円	補委 公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト研究
高脂血症による血管内皮細胞機能不全の分子メカニズムの解明と治療戦略	杉本浩一	第一内科	600千円	補委 公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト研究
心不全における病態・生命予後評価法	佐藤崇匡	第一内科	500千円	補委 公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト研究
正常心および病的心での代謝性冠血流調節機構の解明	金城貴士	第一内科	500千円	補委 公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト研究
RAGE (receptor for advanced glycation end products) による動脈硬化巣同定の試みにおける基礎的検討	上北洋徳	第一内科	490千円	補委 公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト研究
スタチン製剤による心血管系への多面的作用に関する調査研究	石川和信	第一内科	105千円	補委 財団法人循環器病研究振興財団
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平弘正	第二内科	400千円	補委 厚生労働科学研究費
難治性肺疾患に関する調査研究	入澤篤志	第二内科	260千円	補委 厚生労働科学研究費
ベーチェット病に関する調査研究	小林浩子	第二内科	700千円	補委 厚生労働科学研究費
Toll-like receptorを介した自然免疫による炎症性腸疾患の制御	片倉響子	第二内科	1,100千円	補委 文部科学省科学研究費

小計 11

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
進行肺臓がん患者腹水中の Mesothelin抗原特異的Tリンパ球：抗腫瘍免疫応答の解析と臨床的有用性	横川順子	第二内科	1,200千円	補委 財団法人がん研究振興財団がん研究助成
肺癌組織の非手術的組織採取方の確立と遺伝子解析による抗癌剤感受性の予測	高木忠之	第二内科	500千円	補委 財団法人肺臓病研究財団研究奨励賞
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	渡辺 毅	第三内科	3,000千円	補委 厚生労働省
アディポネクチンの糖尿病性腎症に対する影響とその作用機序についての研究	佐藤博亮	第三内科	900千円	補委 日本学術振興会科学研究費
2型糖尿病をはじめとする生活習慣病における新しい代替療法の確立	渡辺 毅	第三内科	5,017千円	補委 福島県
シーターバースト連続磁気刺激の作用機序に関する非侵襲的脳機能分析による基礎的研究	宇川義一	神経内科	130万円	補委 文部科学省研究費
ジストニアの疫学・診断・治療に関する研究	宇川義一	神経内科	80万円	補委 厚生労働省科学研 究補助金
補足運動野反復磁気刺激による大脳基底核疾患治療の開発	宇川義一	神経内科	750万円	補委 厚生労働省科学研 究補助金
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	宇川義一	神経内科	100万円	補委 厚生労働省科学研 究補助金
携帯電話の眼球運動に対する影響に関する研究	宇川義一	神経内科	1500万円	補委 財団法人テレコム 先端技術研究支援センター
携帯電話端末からの電波による症状に関する研究	宇川義一	神経内科	8300万円	補委 財団法人テレコム 先端技術研究支援センター

小計 11

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
電流刺激による知覚強度の測定	宇川義一	神経内科	420万円	補委 人間工学研究センター
携帯電話使用時の頭痛に関する研究	宇川義一	神経内科	420万円	補委 社団法人 電波産業会
携帯電話電波の脳細胞に及ぼす影響の研究	宇川義一	神経内科	100万円	補委 社団法人 電波産業会
反復経頭蓋磁気刺激法によるヒト大脳皮質可塑性の機序の解明と治療応	宇川義一	神経内科	90万円	補委 財団法人磁気健康財団
スモンに関する調査研究	遠藤一博/杉浦嘉泰	神経内科	70万円	補委 厚生労働省科学研費補助金
肝線維化機序の解明とその制御～骨髄由来細胞の関与～	土屋貴男	第一外科	1,700千円	補委 日本学術振興会科学研費
胆管癌における癌部、周囲異型細胞の分子生物学的解析	木村隆	第一外科	900千円	補委 文部科学省科学研費
細胞周期を標的とした癌の免疫学的制御の試み	鈴木弘行	第一外科	2,600千円	補委 日本学術振興会科学研費
若年発症Ⅰ型糖尿病に対する膵島移植—成長と膵島再生の機能連鎖	伊勢一哉	第一外科	1,600千円	補委 日本学術振興会科学研費
探索医療の成果としての膵島移植医療の確立	後藤満一	第一外科	10,250千円	補委 厚生労働省科学研費
乳癌におけるリンパ管新生と乳房リンパ管の3次元病理解析	安田満彦	第二外科	3100千円	補委 日本学術振興会科学

小計 11

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腰部神経根性疼痛に対するアシアロエリスロポエチンの効果に関する研究	菊地臣一	整形外科	2,500千円	補委 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の腰痛症に係る効果的な診断・治療・リハビリテーション等の確立	菊地臣一	整形外科	2,000千円	補委 厚生労働科学研究費補助金
日本人における頸部愁訴、および運動器症状の個人あるいは社会に与えるインパクトに関する調査	菊地臣一	整形外科	2,200千円	補委 日本整形外科学会プロジェクト研究
腰痛における疼痛関連脳活動(functional MRI)と簡易質問票(BS-POP)の計量心理学的検証－前向き研究－	紺野慎一	整形外科	2,800千円	補委 日本整形外科学会プロジェクト研究
福島県における静脈血栓症の診断、治療の現況調査による予防法対策の検証ならびに治療ネットワークの確立	佐戸川弘之	心臓血管外科	300千円	補委 平成19年度プロジェクト研究(学内)
脳分離体外循環使用手術における脳組織酸素飽和度と微小栓子シグナル測定による脳血流および脳微小塞栓の評価	佐藤洋一	心臓血管外科	1,000千円	補委 平成19年度プロジェクト研究(学内)
心拍動下冠動脈バイパスにおける薬理学的スタビライゼーションの研究	三澤幸辰	心臓血管外科	500千円	補委 平成19年度プロジェクト研究(学内)
心臓表面3次元運動解析による心拍動下手術野制御法の開発	若松大樹	心臓血管外科	400千円	補委 平成19年度プロジェクト研究(学内)
高腹膜転移卵巣癌細胞株におけるNeuregulin関与の検討	西山 浩	産科婦人科	1,800千円	補委 科学研究費(学内)
インフルエンザ脳症の病態モデルの作成と、その増悪及び改善因子の検討	細矢光亮	小児科	1,000千円	補委 日本学術振興会科学研究費
小児における急性脳炎・脳症の病態・診断・治療に関する研究	細矢光亮	小児科	1,000千円	補委 日本学術振興会科学研究費

小計 11

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腎糸球体の再生過程における糸球体内皮細胞の役割に関する検討	川崎幸彦	小児科	900千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
SOCS遺伝子抑制によるRSV感染症の新たな治療法確立の検討	橋本浩一	小児科	1,000千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
神経芽腫臨床試験を基盤とした基礎医学的研究およびトランスレーショナルリサーチ	菊田 敦	小児科	300千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
プリオント病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	細矢光亮	小児科	2,500千円	補委 厚生労働省科学研 究費
急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究	細矢光亮	小児科	600千円	補委 厚生労働省科学研 究費
神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化および新規診断・治療法の開発研究	菊田 敦	小児科	600千円	補委 厚生労働省科学研 究費
脈絡膜新生血管におけるチミジンホスホリラーゼの発現とその阻害剤による治療	飯田知弘	眼科	2,000千円	補委 文部科学省科学研 究費
ベーチェット病に関する調査研究	山本俊幸	皮膚科	100万円	補委 厚生労働省
女性骨盤底機能障害の解剖学的および機能的研究	嘉村康邦	泌尿器科学講座	50千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
閉塞膀胱の機能低下とアンジオテンシンⅡレセプターの関与及びブロッカーの予防効果	相川健	泌尿器科学講座	120千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
腎癌の浸潤、増殖におけるHMGB1およびRAGEの関与についての検討	櫛田信博	泌尿器科学講座	140千円	補委 日本学術振興会 科学研究費

小計 11

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ラット膀胱虚血モデルでのβアドレノレセプターを介した膀胱弛緩における検討	野宮正範	泌尿器科学講座	90千円	補委 日本学術振興会科学研究費
頭頸部臓器における多層構造再生技術の開発	大森孝一	耳鼻咽喉科	9,300千円	補委 日本学術振興会科学研究費
脂肪組織由来幹細胞の自家移植による聴覚機能再生	大森孝一	耳鼻咽喉科	2,000千円	補委 日本学術振興会科学研究費
臍帯を用いた先天難聴原因検索	小川 洋	耳鼻咽喉科	1,900千円	補委 日本学術振興会科学研究費
気管再生における移植細胞のはたす役割の解明	多田靖宏	耳鼻咽喉科	1,100千円	補委 文部科学省科学研 究費
気道領域におけるヒト組織の培養および再生に関する研究	横山秀二	耳鼻咽喉科	1,500千円	補委 文部科学省科学研 究費
全身麻酔薬の向精神作用に関する神経化学的研究	村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	2,210千円	補委 日本学術振興会科学研究費
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	大戸 齊	輸血・移植免疫部	13,160千円	補委 厚生労働省科学研 究
輸血用血液の細菌感染防止と血小板の有効性期限延長に関する研究	大戸 齊	輸血・移植免疫部	2,700千円	補委 厚生労働省科学研 究

小計 9

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究	棟方 充	呼吸器内科	3,000千円	○補 委 厚生労働科学研究費補助金
成人気管支ぜん息患者の重症度等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究	棟方 充	呼吸器内科	1,200千円	○補 委 環境再生保全機構
呼気濃縮液中蛋白の網羅的プローム解析による喫煙関連呼吸器疾患の診断ならびに病態解析手法の開発	棟方 充	呼吸器内科	2,000千円	○補 委 喫煙科学研究財団 小計 合計67
				○補 委

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Atherosclerosis, 193 (1), 44-54, 2007 (平成19年4月)	RhoA-dependent PAI-1 gene expression induced in endothelial cells by monocyte adhesion mediates geranylgeranyl transferase I and Ca ²⁺ signaling	阪本貴之	第一内科
Journal of Clinical and Experimental Hematopathology, 47 (1), 23-26, 2007 (平成19年4月)	Spontaneous regression of diffuse large B-cell lymphoma harbouring Epstein-Barr virus: a case report and review of the literature	阿部綠生	第一内科
Experimental Hematology, 35 (4), 618-626, 2007 (平成19年4月)	The role of Wilms' tumor gene peptide-specific cytotoxic T lymphocytes in immunologic selection of a paroxysmal nocturnal hemoglobinuria clone	池田和彦	第一内科
Transfusion, 47 (7), 1234-1240, 2007 (平成19年6月)	Automated programs for collection of mononuclear cells and progenitor cells by two separators for peripheral blood progenitor cell transplantation: comparison by a randomized crossover study	池田和彦	第一内科
Circulation Journal, 71 (6), 954-961, 2007 (平成19年6月)	Difference in early effects of statin therapy on coronary and forearm flow reserve in postmenopausal hypercholesterolemic women	義久精臣	第一内科
Internal Medicine, 46 (11), 721-726, 2007 (平成19年6月)	Pulmonary capillary bleeding in a patient with severe left ventricular failure after acute myocardial infarction under anti-thrombotic therapy	石川和信	第一内科
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 14 (3), 109-115, 2007 (平成19年6月)	Role of Ca ²⁺ influx in tissue factor expression in monocyte adhesion to endothelial cells	阪本貴之	第一内科
Circulation Journal, 71 (6), 922-928, 2007 (平成19年6月)	Vasoconstrictive response in the vascular beds of the non-exercising forearm during leg exercise in patients with mild chronic heart failure	千葉良文	第一内科
International Journal of Hematology, 86 (3), 216-221, 2007 (平成19年10月)	Microvascular thrombosis in the hepatic vein of a patient with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria	野地秀義	第一内科
Journal of the American Society of Echocardiography, 20 (11), 1318.e5-1318.e8, 2007 (平成19年11月)	A case of recurrent myocardial infarction caused by a giant right coronary artery aneurysm	高野真澄	第一内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
American Journal of Physiology (Heart and Circulatory Physiology), 293 (6), H3720-H3725, 2007 (平成19年12月)	Redox-dependent coronary metabolic dilation	斎藤修一	第一内科
Hypertension, 50 (6), 1040-1048, 2007 (平成19年12月)	Synergetic antioxidant and vasodilatory action of carbon monoxide in angiotensin II induced cardiac hypertrophy	小林 淳	第一内科
Circulation Journal, 72 (2), 331-334, 2008 (平成20年2月)	Attenuation of diastolic heart failure and life-threatening ventricular tachyarrhythmia after peripheral blood stem cell transplantation combined with cardioverter-defibrillator implantation in myeloma-associated cardiac amyloidosis	矢尾板裕幸	第一内科
Circulation Journal, 72 (2), 226-231, 2008 (平成20年2月)	Prediction of remote left ventricular volumes and functions after acute myocardial infarction with successful coronary intervention	金子博智	第一内科
酸化ストレスと心血管病, 9-12, 2007 (平成19年4月)	活性酸素種以外のガス分子 (NO, CO)	石川和信	第一内科
Medical Practice, 24 (5), 776-783, 2007 (平成19年5月)	急性心不全ガイドライン -全面改訂のポイントと実地医家の使い方-	矢尾板裕幸	第一内科
心エコー, 8 (5), 422-429, 2007 (平成19年5月)	コントラストエコーは生き残れるか	高野真澄	第一内科
今日の診断基準, 141-144, 2007 (平成19年6月)	急性心不全	矢尾板裕幸	第一内科
今日の診断基準, 145-147, 2007 (平成19年6月)	慢性心不全	矢尾板裕幸	第一内科
医学のあゆみ, 221 (13), 1184-1189, 2007 (平成19年6月)	終末糖化産物	石橋敏幸	第一内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
血管, 30 (2), 61-64, 2007 (平成19年6月)	Advanced glycation end products (AGEs, 終末糖化産物) 依存性遺伝子発現調節機構におけるMT1-MMP (膜型1マトリックスマタロプロテアーゼ)/RAGE会合の重要性	上岡正志	第一内科
日本臨床, 65 (増刊号7), 640-644, 2007 (平成19年7月)	脂質代謝異常の臨床 高脂血症 各種病態における二次性低脂血症の発症機序とその治療 血液疾患における低脂血症	石橋敏幸	第一内科
呼吸と循環, 55 (9), 1007-1012, 2007 (平成19年9月)	急性心不全ガイドラインについて	矢尾板裕幸	第一内科
Heart View, 11 (増刊), 146-147, 2007 (平成19年11月)	特集：心エコー図診断のためのKey Eord/17 弁膜症三尖弁狭窄症	高野真澄	第一内科
Heart View, 11 (増刊), 148-149, 2007 (平成19年11月)	特集：心エコー図診断のためのKey Eord/17 弁膜症三尖弁閉鎖不全症	高野真澄	第一内科
medicina, 62 (12), 88-92, 2007 (平成19年11月)	弁逆流	高野真澄	第一内科
日本医事新報 (4364), 90-91, 2007 (平成 年 月)	高脂血症治療薬の投与継続期間	石橋敏幸	第一内科
今日の治療指針 2008 年版, 50, 488-489, 2008 (平成20年1月)	悪性貧血	七島 勉	第一内科
循環器疾患最新の治療 2008-2009, 259-265, 2008 (平成20年3月)	うつ血性心不全	矢尾板裕幸	第一内科
J Gastroenterol. 42, (suppl.17), 90-4, 2007. (平成19年 月)	Usefulness of endoscopic ultrasound to diagnose the severity of chronic pancreatitis.	入澤篤志	第二内科

小計 10

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pancreas, 35(2), 189-90, 2007. (平成19年 月)	Endoscopic ultrasound-guided fine-needle injection of immature dendritic cells into advanced pancreatic cancer refractory to gemcitabine: a pilot study.	入澤篤志	第二内科
消化器内視鏡, 19(7), 1005-1010, 2007. (平成19年 月)	EUSガイド下腹腔神経叢ブロック／破壊術.	入澤篤志	第二内科
Int J Cancer, 121(3), 595-605, 2007. (平成19年 月)	Identification of cytotoxic T-lymphocyte epitope(s) and its agonist epitope(s) of a novel target for vaccine therapy (PAGE4).	横川順子	第二内科
福島医学会雑誌, 57(2), 115-122, 2007. (平成19年 月)	癌ワクチン療法 preclinical studies and novel strategies.	横川順子	第二内科
臨床消化器内科, 22(5), 559-567, 2007. (平成19年 月)	孤立性胃静脈瘤に対する内視鏡による予防的治療(CA/EO併用法).	高木忠之	第二内科
胆と膵, 29, 25-30, 2008. (平成20年 月)	Double/triple lumen catheterによるwire-loaded/guided ERCP.	入澤篤志	第二内科
Clin Cancer Res, 14(4), 1032-40, 2008. (平成20年 月)	Enhanced Functionality of CD4+CD25highFoxP3+ Regulatory T Cells in the Peripheral Blood of Patients with Prostate Cancer.	横川順子	第二内科
Diabetes Res Clin Pract (平成19年 月)	Metabolic improvement of male prisoners with type 2 diabetes in Fukushima Prison, Japan.	MIDORIKAWA Sanae	第三内科
Clinical and Experimental Nephrology (平成19年 月)	Estimation of glomerular filtration rate by the MDRD study equation modified for Japanese patients with chronic kidney disease.	WATANABE Tsuyoshi	第三内科
Clinical and Experimental Nephrology (平成19年 月)	Prevalence of chronic kidney disease (CKD) in the Japanese general population predicted by the MDRD equation modified by a Japanese coefficient.	WATANABE Tsuyoshi	第三内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名 (平成19年 月)	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Nephrology (平成19年 月)	Beneficial effect of low-density lipoprotein apheresis (LDL-A) on refractory nephrotic syndrome (NS) due to focal glomerulosclerosis (FGS).	WATANABE Tsuyoshi	第三内科
Therapeutic Research (平成19年10月)	エゴマ油摂取はTGF-β発現抑制を介してIgA腎症の進行を抑制する。	櫻井 薫	第三内科
Therapeutic Research (平成19年10月)	維持血液透析患者における動脈硬化疾患とAGEsの関連。	田中健一	第三内科
新薬と臨床 (平成19年 月)	糖尿病神経障害患者に対するエパルレストットの治療効果 東北地方1000人のVASを用いたアンケート調査を中心に.	渡辺 毅	第三内科
J Neurol 254: 442–447, 2007 (平成 年 月)	Primary face motor area as the motor representation of articulation.	宇川義一	神経内科
Neurology 68: 1039-1044, 2007 (平成 年 月)	Intracortical inhibition of the motor cortex in Segawa's disease (DYT5).	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 877-886, 2007 (平成 年 月)	Median nerve somatosensory evoked potentials and their high-frequency oscillations in amyotrophic lateral sclerosis.	宇川義一	神経内科
Bioelectromagnetics 28: 553–561, 2007 (平成 年 月)	Effects of high frequency electromagnetic field (EMF) emitted by mobile phones on the human motor cortex.	宇川義一	神経内科
Exp Brain Res 180: 667-675, 2007 (平成 年 月)	Hemoglobin concentration changes in the contralateral hemisphere during and after theta burst stimulation of the human motor cortices	望月仁志	神経内科
J Cognitive Neurosci 19: 1556–1573, 2007 (平成 年 月)	Modifying the cortical processing for motor preparation by repetitive transcranial magnetic stimulation. J Cognitive	宇川義一	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名 (平成 年 月)	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurosurg 107: 548-554, 2007 (平成 年 月)	Characteristics and distribution of somatosensory evoked potentials in the subthalamic region.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 1596-1601, 2007 (平成 年 月)	Origin of facilitation in repetitive, 1.5 ms interval, paired pulse transcranial magnetic stimulation (rPPS) of the human motor cortex	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 1545-1556, 2007 (平成 年 月)	EFFECTS OF THIRTY-MINUTE MOBILE PHONE EXPOSURE ON SACCADES	宇川義一	神経内科
Mov Disord 22: 728-731, 2007 (平成 年 月)	Severe hypokinesis caused by paraneoplastic anti-Ma 2 encephalitis associated with bilateral intratubular germ-cell neoplasm of the testis.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2120-2122, 2007 (平成 年 月)	Comparison of different methods for estimating motor threshold with transcranial magnetic stimulation.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2227-2233, 2007 (平成 年 月)	Differences in after-effect between monophasic and biphasic high-frequency rTMS of the human motor cortex.	宇川義一	神経内科
Behav Neurol 18: 99-114, 2007 (平成 年 月)	Parietal dysgraphia: Characterization of abnormal writing stroke sequences, characterformation and character recall.	宇川義一	神経内科
Neurology 70: 528-532, 2008 (平成 年 月)	Evaluation of corticospinal tracts in ALS with diffusion tensor MRI and brainstem stimulation.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2672-2682, 2007 (平成 年 月)	Quadro-pulse stimulation is more effective than paired pulse stimulation for plasticity induction of the human motor cortex.	宇川義一	神経内科
Exp Brain Res 185: 279-286, 2008 (平成 年 月)	Short and long duration transcranial direct current stimulation (tDCS) over the human hand motor area. Exp Brain Res 185: 279-286, 2008	古林俊晃	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名 (平成 年 月)	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Neurophysiol 119: 1400-1407, 2008 (平成 年 月)	Difference in intracortical inhibition of the motor cortex between cortical myoclonus and focal hand dystonia.	宇川義一	神経内科
Acta Neurol Scand 118: 132-135, 2008 (平成 年 月)	A case of bilateral parietal cortical laminar necrosis with a loss of vertiginous sensation.	杉浦嘉泰	神経内科
Clin Neurophysiol. 2008 Mar;119(3):504-32 (平成 年 月)	The clinical diagnostic utility of transcranial magnetic stimulation: Report of an IFCN committee.	宇川義一	神経内科
J Physiol 2008 586: 3927-3947 (平成 年 月)	Bidirectional long-term motor cortical plasticity and metaplasticity induced by quadripulse transcranial magnetic stimulation. J Physiol 2008 586: 3927-3947	宇川義一	神経内科
Acta Neurol Scand 118: 94-98, 2008 (平成 年 月)	Paired stimulation study of the median nerve sensory action potential in diabetic patients.	榎本 雪	神経内科
Journal of Cognitive Neuroscience, 19(9) 1556-1573 (平成 年 月)	Modifying the Cortical Processing for Motor Preparation by Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation.	宇川義一	神経内科
Internal Medicine 46(18) 1617-1620 (平成 年 月)	An Adult case of relapsing human herpesvirus-6 encephalitis.	榎本 雪	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(3) 266-267 (平成 年 月)	筋力(1).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(4) 382-385 (平成 年 月)	筋力(2).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(5) 506-509 (平成 年 月)	筋力(3).	宇川義一	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neuroscience別冊, 25(6) 626-629 (平成 年 月)	筋力(4)	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience別冊, 25(7) 742-744 (平成 年 月)	筋力(5).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 25(11) 1198-1201 (平成 年 月)	反射(1)総論.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 25(12) 1314-1317 (平成 年 月)	反射(2)上肢腱反射.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(1) 12-13 (平成 年 月)	反射(3)下肢腱反射.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(2) 128-131 (平成 年 月)	反射(4)表在反射.	宇川義一	神経内科
臨床神経学, 47(2・3) 96-99 (平成 年 月)	関節リウマチに対する抗TNF α 抗体治療中に視覚認知障害を呈した1例.	宇川義一	神経内科
Medical Practice, 24(7) 1292-1293 (平成 年 月)	本態性振戦essential tremor.	宇川義一	神経内科
神経内科, Reprinted from NEUROLOGICAL MEDICINE 67(4) (平成 年 月)	くも膜下出血後の脳血管攣縮による両側島の脳梗塞.	松田 希 柴野 健 宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(1) 16-20 (平成 年 月)	チャネルとてんかん生理.	杉浦嘉泰 宇川義一	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脊椎脊髄ジャーナル, 20(3)217-222 (平成 年 月)	特集 神経・筋疾患診断のための電気生理学的検査—基礎とその臨床評価. 経頭蓋的磁気刺激の基礎と応用。	宇川義一	神経内科
神経内科 67: 392-393 (平成 年 月)	くも膜下出血後の脳血管攣縮による両側島の脳梗塞	松田 希 柴野 健 宇川義一	神経内科
Orthostatic tremor 神経内科 66: 128-130 (平成 年 月)	Orthostatic tremor 神経内科 66: 128-130	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 25: 795-797 (平成 年 月)	神経根磁気刺激	宇川義一	神経内科
Review. Brain Medical 12: 317-321 (平成 年 月)	神経学における歩行	宇川義一	神経内科
神経治療学, 24(6) 719-723 (平成 年 月)	低髄液圧症候群の体位性頭痛と両側感音性難聴に経口theophylline治療が奏功した1例。	遠藤一博 宇川義一	神経内科
ポリオ日本臨床 65 (3), 60-68 (平成 年 月)	新感染症学 新時代の基礎・臨床研究 感染症学各論 感染症法分類 発症・病態・診断・治療 二類感染症。	遠藤一博	神経内科
中外医学社、27-39 (平成 年 月)	運動障害movement disorders の電気生理検査. Annual review 神経 2007, 柳澤信夫、篠原幸人、岩田誠、清水輝夫、寺本明編、	宇川義一	神経内科
中外医学社、209-214 (平成 年 月)	磁気刺激療法は有効か. EBM神経疾患の治療、岡本幸市、棚橋紀夫、水澤英洋 編、	宇川義一	神経内科
J Gastroenterol Hepatol. 22(11):2001-8, 2007 (平成19年 月)	Participation of bone marrow cells in biliary fibrosis after bile duct ligation.	Asawa S	第一外科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol Hepatol. 22(11):1971-7,2007 (平成19年 月)	Ischemic preconditioning enhances regenerative capacity of hepatocytes in long-term ischemically damaged rat livers.	Yamada F	第一外科
Fukushima J Med Sci. 53(1):1-9, 2007. (平成19年 月)	Ornithine decarboxylase activity as a prognostic marker for colorectal cancer.	Hoshino Y	第一外科
Lung Cancer. 57(2):187-92, 2007. (平成19年 月)	Carbohydrate status detecting by PNA is changeable through cancer prognosis from primary to metastatic nodal site: A possible prognostic factor in patient with node-positive lung adenocarcinoma.	Shio Y	第一外科
移植42(3):235-241, 2007 (平成19年 月)	【組織移植の現状と今後の展望】膵島移植の現状と展望。	穴澤貴行	第一外科
日本呼吸器外科学会雑誌 21(4):560-564, 2007. (平成19年 月)	肺癌再発巣に対してラジオ波焼灼術を施行し、効果判定にFDG-PETが有効であった1例	樋口光徳	第一外科
日本小児がん学会雑誌 44(2):130-134, 2007. (平成19年 月)	後腹膜腫瘍に対する腹膜前腔アプローチの検討	伊勢一哉	第一外科
癌と化学療法 (平成 年 月)	ペプチドパルス樹状細胞療法におけるモニタリングとしてのCTL assay,DTHの検証	岩館 学	第二外科
Oncol Rep.2008 Mar;99(3):595-600. (平成 年 月)	Expression of phospholipase D2 in human colorectal carcinoma.Expression of phospholipase D2 in human colorectal carcinoma.	Takenoshita S.	第二外科
Biochem Biophys Res Commun. Biochem Biophys Res Commun. 2007 Nov;18(5):1329-34. (平成 年 月)	Circadian rhythm of apoprotein H (beta2-glycoprotein-1) in human plasma.Circadian rhythm of apoprotein H (beta2-glycoprotein-1) in human plasma.	Takenoshita S.	第二外科

小計 9

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroenterol.2007 Aug 24;360(2):418-22. Epub 2007 Jun 19. (平成 年 月)	Correlation of N-myc downstream-regulated gene 1 expression with clinical outcomes of colorectal cancer patients of different race/ethnicity.	Takenoshita S.	第二外科
Cancer Sci. 2008 Mar;99(3):595-600. (平成 年 月)	Peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based detection test for gefitinib-refractory T790M epidermal growth factor receptor mutation.	Takenoshita S.	第二外科
Journal of Neurosurgery (平成 19 年 7月)	Blood flow disturbance in perforating arteries attributable to aneurysm surgery	SASAKI Tatsuya	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgia (平成 19 年 9月)	Cerebral Medulloepithelioma With Long Survival -Case Report-	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
CI研究 (平成 19年 10月)	脳梗塞に対するmulti-detector CT (MDCT)を用いたd3D-CTA (dynamic 3D-CTA)	松本正人	脳神経外科
小児内科 (平成 19 年 11月)	脳腫瘍の髄液播種	松本正人	脳神経外科
東北脳血管障害研究会 (平成 19 年 12月)	脳血管障害に対するd3D-CTA (dynamic 3D-CTA)	松本正人	脳神経外科
Fukushima Journal of Medical Science (平成 19 年 12月)	Can 3D-CT Angiography (3D-CTA) Replace Conventional Catheter Angiography In Ruptured Aneurysm Surgery? Our Experience With 162 Cases	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
脳卒中の外科 (平成 19 年 12月)	3D-CTを用いたくも膜下血腫定量の試み	佐藤拓	脳神経外科
脳卒中 (平成 20 年 1月)	脳梗塞に対するd3D-CTA (dynamic 3D-CTA) の臨床応用の可能性	松本正人	脳神経外科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOURNAL OF CLINICAL MICROBIOLOGY 45(12):4085-4087,2007 (平成19年12月)	Mycobacterium bovis BCG Vertebral Osteomyelitis after Intravesical BCG Therapy, Diagnosed by PCR-Based Genomic Deletion Analysis.	二階堂琢也	整形外科
Int J Sports Med 28:977-979,2007 (平成19年11月)	Unusual fracture of the humerus in a volleyball player: a case report.	箱崎道之	整形外科
Clin Rheumatol 26:841-844,2007 (平成19年5月)	Acute calcific tendinitis of the thumb in a child: a case report.	箱崎道之	整形外科
BMC Musculoskeletal Disord 30(8),2007 (平成19年 月)	A diagnostic support tool for lumbar spinal stenosis: a self-administered, self-reported history questionnaire.	紺野慎一	整形外科
Spine 32(4):406-412,2007 (平成19年 月)	Does facet joint inflammation induce radiculopathy? an investigation using a rat model of lumbar facet joint inflammation.	立原久義	整形外科
Spine 32(4):413-416,2007 (平成19年 月)	Anti-TNF- α Antibody Reduces Pain-Behavioral Changes Induced by Epidural Application of Nucleus Pulposus in a Rat Model Depending on the Timing of Administration.	佐々木伸尚	整形外科
Spine 32(12):1265-1271,2007 (平成19年 月)	Increase of 200-kDa Neurofilament-Immunoreactive Afferents in the Substantia Gelatinosa in Allodynic Rats Induced by Compression of the Dorsal Root Ganglion.	渡辺和之	整形外科
Spine 32(15):E585-E588,1592-1598,2007 (平成19年 月)	Involvement of EphB1 Receptor / EphrinB2 Ligand in Neuropathic Pain.	小林秀男	整形外科
Spine 32(2):E73-E78,2007 (平成19年 月)	Effects of the mechanical load on forward bending motion of the trunk: comparison between patients with motion-induced intermittent low back pain and healthy subjects.	高橋一朗	整形外科
Spine 32(20):E585-E588,2007 (平成19年 月)	Multiple Extradural Arachnoid Cysts. Report of Two Operated Cousin Cases.	矢吹省司	整形外科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Spine J 16:1913-1918,2007 (平成19年 月)	Spinal stenosis: assessment of motor function, VEGF expression and angiogenesis in an experimental model in the rat.	渡辺和之	整形外科
Eur Spine J 16:1951-1957,2007 (平成19年 月)	Development of a clinical diagnosis support tool to identify patients with lumbar spinal stenosis.	紺野慎一	整形外科
J Orthop Sci 12:42-48,2007 (平成19年 月)	Complications of endoscopic spinal surgery: a retrospective study of thoracoscopy and retroperitoneoscopy.	渡辺和之	整形外科
Fukushima J Med Sci 53(1):19-25,2007 (平成19年 月)	Cervical spinous process bifurcation is not useful as a landmark in posterior cervical spine approach.	渡辺和之	整形外科
Fukushima J Med Sci 53(1):33-38,2007 (平成19年 月)	Keishikajutsubuto Treatment to Refractory Accumulation of Synovial Fluid in a Patient with Pustulotic Arthro-Osteitis.	佐藤弘一郎	整形外科
日本冠疾患学会雑誌 Vol.13, No1 p51-55 (平成19年2月25日発行)	冠動脈外科におけるMDCT: 現状と課題	三澤幸辰	心臓血管外科
胸部外科、第60巻、4号 (平成19年4月)	急性A型大動脈解離に対する治療戦略	佐藤洋一	心臓血管外科
エンドトキシン血症救命治療研究会誌 (平成19年10月)	心臓大血管手術におけるプロカルシトニン測定によるPMX-DHP導入効果の検討	高瀬信弥	心臓血管外科
福島医学会雑誌 (平成19年2月)	化学療法が有効であった評価可能病変を有する子宮肉腫2例	添田 周	産婦人科
J. Clin. Microbiology (平成19年 月)	Genetic diversity of coxsackievirus A16 associated with hand, foot and mouth disease epidemics in Japan from 1983 to 2003	細矢光亮	小児科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名 (平成19年 月)	題名	発表者氏名	所属部門
J. Nephrol. (平成19年 月)	Efficacy of single dose of oral mizoribine pulse therapy two times per week for frequently relapsing nephritic syndrome	川崎幸彦	小児科
Pediatr. Nephrol. (平成 19年6月)	Long-term efficacy of low-density lipoprotein apheresis for focal and segmental glomerulosclerosis	川崎幸彦	小児科
Tohoku J. Exp. Med. (平成19年 月)	Efficacy of tonsillectomy plus methylprednisolone pulse therapy for a child with Henoch-Schoenlein purpura nephritis	川崎幸彦	小児科
Pediatr. Int. (平成19年 月)	Girl with garland-pattern poststreptococcal acute glomerulonephritis presenting with renal failure and nephrotic syndrome	陶山和秀	小児科
Transfusion Med. (平成19年8月)	Extended storage of granulocyte concentrates mobilized by G-CSF with/without dexamethasone and collected by bag separation method	望月一弘	小児科
Canadian Journal of Ophthalmology.42 (平成 19年 5月)	Ultrasound biomicroscopy of eyelid eccrine hidrocystoma	古田 実	眼科
Archives of Ophthalmology.125 (平成 19年 6月)	Neovascular glaucoma from advanced coats disease as the initial manifestation of facioscapulohumeral dystrophy in a 2-year-old child.	古田 実	眼科
Am J Ophthalmol 144 (平成19年 7月)	Clinical characteristics of exudative age-related macular degeneration in Japanese patients.	丸子一朗	眼科
Br J Ophthalmol 91 (平成 19年 8月)	Polypoidal choroidal vasculopathy with an appearance similar to classic choroidal neovascularisation on fluorescein angiography.	飯田知弘	眼科
Archives of Ophthalmology.125 (平成 19 年11月)	Visual acuity in 3422 consecutive eyes with choroidal nevus.	古田 実	眼科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Retina 27 (平成 19年11月)	Importance of understanding tomographic features of occult membranes in the management and follow-up of a case of fibrovascular pigment epithelial detachment and diabetic ischemic maculopathy.	飯田知弘	眼科
Jpn J Ophthalmol 51 (平成 19年12月)	Lobular structure of choriocapillaris in a patient with ophthalmic artery occlusion.	藤原聰之	眼科
Retinal Cases & Brief Reports 2 (平成 20年 1月)	Indocyanine green angiography in eyes with substantially increased subretinal fluid 1 week after photodynamic therapy.	古泉英貴	眼科
Am J Ophthalmol 145 (平成 20年 3月)	Comparative therapy evaluation of intravitreal bevacizumab and triamcinolone acetonide on persistent diffuse diabetic macular edema	飯田知弘	眼科
Ophthalmology 115 (平成 20年 3月)	Clinical spectrum of choroidal nevi based on age at presentation in 3422 consecutive eyes.	古田 実	眼科
Retina 28 (平成 20年 3月)	Cross-sectional and en face optical coherence tomographic features of polypoidal choroidal vasculopathy.	齋藤昌晃	眼科
Immunology (平成 19年4月)	Local thermal injury elicits immediate dynamic behavioral responses by corneal Langerhans cells	WARD BR, Nishibu A	皮膚科
Acta Dermato Venereologica (平成 19年 5月)	Psoriasisiform eruption associated with Graft-versus-Host disease	Kawakami Y, et al.	皮膚科
Journal of Dermatology (平成19年10月)	A case of systemic sclerosis complicated by ovarian cancer	Kawakami Y, et al.	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol (平成 19年8月)	Koebner phenomenon associated with palmoplantar pustulosis	Yamamoto T	皮膚科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Rheumatol Int (平成19年4月)	Yellow nails under bucillamine therapy for rheumatoid arthritis: a report of two cases	Yamamoto T	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol (平成19年5月)	Persistant bilateral hyperpigmentation caused by local stem cell factor injection	Yamamoto T	皮膚科
The Journal fo Urology, 177(4):488, 2007. (平成19年 4月)	Passive response of the pelvic floor(PF) to valsalva(v)	Shishido Keiichi	泌尿器科
Neurourology and Urodynamics, 26(5):692-693. (平成19年 8月)	Obstruction alters muscarinic receptor-activated Rho A/Rho-kinase pathway in the urinarybladder of the rat.	Takahashi Norio	泌尿器科
Tissue Engineering (平成19年 5月)	Potential of heterotopic fibroblasts as transplanted cells for tracheal epithelial regeneration.	Ken Kobayashi, Koichi Omori, et al.	耳鼻咽喉科
Laryngoscope (平成19年 6月)	Bone regeneration of canine skull using bone marrow – derived stromal cells and β -tricalcium phosphate.	Hiroo Umeda, Koichi Omori, et al.	耳鼻咽喉科
Annals of Otology, Rhinology & Laryngology (平成20年 1月)	Effect of fibroblasts on epithelial regeneration on the surface of a bioengineered trachea.	Yukio Nomoto, et al.	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報 (平成19年 4月)	ワークショップ2「再生」司会のまとめ	大森孝一	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報 (平成19年 4月)	気管上皮層の効果的再生.	鈴木輝久, 他	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報 (平成19年 4月)	組織工学的手法を用いた気道再生の臨床応用.	多田靖宏, 他	耳鼻咽喉科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
喉頭 (平成19年12月)	喉頭レーザー手術後の音声機能評価.	多田靖宏, 他	耳鼻咽喉科
Fukushima J Med Sci (平成19年 月)	Effects of olprinone on neuromuscular blockade caused by vecuronium	Katayama T	麻酔・疼痛緩和科
J Clin Anesth (平成19年 月)	Two case of idiopathic superior laryngeal neuralgia treated by laryngeal nerve block with high concentration of lidocaine	Sato KT	麻酔・疼痛緩和科
日臨救医誌 (平成19年 月)	ICU入室患者における急性呼吸不全実態調査	村川 雅洋	集中治療部
Int. J. Oral and Maxillofac. Surg. (平成 19 年 7 月)	The surgical method for catheter placement via the occipital artery by an approach from the posterior of the mastoid process	長谷川 博	歯科口腔外科
Hosp. Dent. and Oral-maxillofac. Surg (平成 年 月)	化学放射線療法が奏効した広範な紅板症の一例	佐藤栄需	歯科口腔外科
Virchows Arch. 2007; 451(5), 899–904 (平成19年 5月)	Mesometrial smooth muscle as an origin of female retroperitoneal (pelvic) leiomyomas.	Kazuo Watanabe	病理部
癌の臨床 53巻 8号 525-530 (平成19年 8月)	癌(腫瘍)取扱い規約における表記法の統一化の検討	田中 学	病理部
Vox sanguinis (平成 20 年 月)	Survival and recovery of apheresis platelets stored in a polyolefin container with high oxygen permeability	江月将史	輸血・移植免疫部
日本輸血細胞治療学会雑誌 (平成 20 年 月)	血小板製剤による敗血症の予防と対応策に関する手引き	大戸 齊	輸血・移植免疫部

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Asthma 2007; 44: 805-810 (平成19年12月)	Off-line fractional exhaled nitric oxide measurement is useful to screen allergic airway inflammation in an adult population.	Junpei Saito	呼吸器内科
呼吸器科 2007; 11: 575-586 (平成19年5月)	気管支喘息診断と管理における呼気一酸化窒素測定の意義	斎藤純平	呼吸器内科
カレントテラピー 2008; 26: 74 (平成20年3月)	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の病態と治療、呼気凝集液のバイオマーカー	斎藤純平	呼吸器内科
Clin Exp Allergy 2007; 37:1334-9 (平成19年9月)	Mannose binding lectin gene polymorphisms and asthma	王新濤	呼吸器内科
Allergol Int. 2008; 57: 1-20 (平成20年3月)	Plasma UGRP1 levels associate with promoter G-112A polymorphism and the severity of asthma	Keiichi Inoue	呼吸器内科
日本内科学会誌 2007; 97: 420-422 (平成 20年2月)	広範な肺・胸膜壊死を伴った劇症型溶血性連鎖球菌感染症の1例	佐藤俊	呼吸器内科
(平成 年 月)			

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計
合計175

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 竹之下誠一
管理担当者氏名	病院経営課 清野隆彦、医事課 鈴木賢司

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部		一患者一ファイルに整理し、医療情報にて一括整理している。その他の診療に関する諸記録も患者個人フォルダー等に収納し一括保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録 従業者数を明らかにする帳簿	病院経営課		業務毎に簿冊に綴じて分類している。
高度の医療の提供の実績	"		
高度の医療技術の開発及び評価の実績	"		
高度の医療の研修の実績	"		
閲覧実績	"		
紹介患者に対する医療提供の実績	"		
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	"		
確規 保則 の第 状9 況条 の 2 及 3 び 第 1 條 の 1 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部 感染制御部 医療安全管理部 医療安全管理部 医療連携相談室 医療安全管理部 " " "	

			保管場所	分類方法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 1 条 の 1 1 各 号 に 掲 げ る 体 制 確 保 の 状 況	院内感染のための指 針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	"	
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	"	
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善の方策の実施状況	"	
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	医薬品安全使 用部会	
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	"	
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	"	
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善の方策の実施状況	"	
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	臨床工学セン ター	
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	"	
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	"	
		医療機器の安全使用 のために必要な情報 の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善の方策の実 施状況	"	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 竹之下誠一
閲覧担当者氏名	病院経営課 清野隆彦
閲覧の求めに応じる場所	病院棟3階 病院経営課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	5 5 . 7 %	算 定 期 間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算	A : 紹 介 患 者 の 数		9, 196 人
出	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7, 495 人
根	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		1, 379 人
拠	D : 初 診 の 患 者 の 数		24, 944 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (3名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：	
医療安全管理部	専任 (4) 名 (医師 1名、看護師2名、事務職1名) 兼任 (4) 名 (医師 3名、薬剤技師1名)
感染制御部	専任 (2) 名 (看護師2名) 兼任 (6) 名 (医師 3名、臨床検査技師 2名、事務職1名)
・活動の主な内容：	
医療安全推進 院内において発生した医療事故及びインシデント情報の分析と事故防止策の実践 医療安全のための研修 褥瘡対策 院内感染対策	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・指針の主な内容：	
病院内の医療安全管理に関しては、「医療事故防止対策委員会設置要綱」(平成18年4月1日制定、平成20年6月11日最終改訂)及び「医療事故防止マニュアル」(平成12年11月17日制定、平成16年5月12日改訂、平成20年6月11日最終改訂)のほか、「医療安全管理指針」(平成14年11月13日策定、平成20年6月11日最終改訂)を医療事故防止対策委員会で決定している。	
また、平成16年11月12日に「医療事故防止マニュアル」を全員に配布していたが、平成19年度に「医療事故防止マニュアル」の内容を全面的に見直し、「医療安全ポケットマニュアル」を作成して、平成20年4月より医療従事者全員に配布した。	
なお、「医療事故防止マニュアル」は、各部署に2冊配布し、必要に応じ部分改訂・追加を行っている。改訂・追加の際は、各部署に改訂・追加ページを配布のうえ、職員全員に対して、差替え実施確認を行っている。	
医療安全管理指針の項目は次のとおり。	
1 医療安全管理に関する基本的な考え方 2 医療安全管理部の設置 3 医療安全管理のための委員会等 4 医療安全管理のための職員研修 5 医療事故報告等に基づく医療安全確保を目的とした改善方策 6 医療事故等発生時の対応	

7 医療従事者と患者の間の情報の共有

8 患者からの相談への対応

9 その他

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年56回

・活動の主な内容：

医療事故防止対策委員会は、昭和59年度に設置され、平成11年度までに5回会議が開催された。

当該委員会で、事故防止の対策等を検討しているが、平成12年9月の委員改選時に、法医学講座の教授を新たに加えたほか、委員の数を8名から14名へ増加し、機能強化を図った。

平成14年6月から、毎月1回委員会を開催し、リスクマネージャー会議の結果やアクシデント報告を踏まえ、事故防止対策を審議している。

委員の任期満了に伴い、平成20年5月から一部委員を改選し19名で審議を行っている。

また、平成12年5月に医療事故防止対策委員会の下部組織として、リスクマネージャー会議を設置した。

当該会議は、副病院長（医療安全担当）を委員長として、事務部長、各診療科（講座の代表）及び各中央部門の副部長、各病棟の看護師長、検査部及び放射線部の技師長、附属病院事務部門の各課長の計75名で構成されており、毎月開催している。

ここでは、インシデント事例の概要報告、評価・分析・改善方策の検討、標語の発表及びアクシデント事例の報告等を行っている。

さらに、平成16年5月に新たに「医療クオリティ審議委員会」が設置され、一定レベル以上の事例について、過失や因果関係の有無、事故防止策の審議を行っている。

このほか、平成16年11月より、毎月、各種医療安全に関する情報の周知確認のため、会議資料等を閲覧した際には、各自サインをし、その確認票を提出することとした。

(医療事故防止対策委員会 開催状況 平成19年度)

19年 4月 11日	19年 10月 10日
19年 5月 9日	19年 11月 14日
19年 6月 13日	19年 12月 11日
19年 7月 11日	20年 1月 9日
19年 8月 8日	20年 2月 13日
19年 9月 12日	20年 3月 11日

計12回

(リスクマネージャー会議 開催状況 平成19年度)

19年 4月 11日	19年 10月 10日
19年 5月 9日	19年 11月 14日
19年 6月 13日	19年 12月 11日
19年 7月 11日	20年 1月 9日
19年 8月 8日	20年 2月 13日
19年 9月 12日	20年 3月 11日

計12回

(医療クオリティ審議委員会 開催状況 平成19年度)

19年 4月 11日	19年10月23日
19年 5月 7日	19年10月30日
19年 5月15日	19年11月20日
19年 5月23日	19年11月27日
19年 5月29日	19年12月 4日
19年 6月12日	19年12月11日
19年 6月19日	19年12月12日
19年 6月26日	19年12月12日
19年 7月10日	19年12月21日
19年 7月17日	19年12月28日
19年 7月18日	20年 1月29日
19年 8月 7日	20年 2月12日
19年 8月21日	20年 2月13日
19年 9月 4日	20年 3月 4日
19年 9月11日	20年 3月11日
19年10月22日	20年 3月25日
	計32回

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
--------------------------	------

・研修の主な内容：

医療安全管理研修会は、平成14年度2回、平成15年度3回、平成16年度2回、平成17年度10回、平成18年度15回、平成19年度16回実施している。

このほか、平成15年度の医療安全管理研修会から、研修会の出席者に参加シールを配布し、出席率の向上を図ることとした。

また、平成16年度から、研修会の欠席者に対して所属のリスクマネージャーが伝達講習を行い、内容確認のためのチェック票の提出を求め、所属内全員に周知徹底を図っている。

平成17年度から、講演をビデオ録画し貸出しするなど、各所属内で医療安全に関する情報の更なる周知徹底を図ることとした。

名称	開催年月日	参加者	内容
オリエンテーション	19年4月 3日	看護部新採用者 計48名	医療安全管理
新RM研修会	19年4月 17日	新任RM 計14名	リスクマネージャーの役割
初任者安全管理研修会	19年4月 25日	看護部を除く新採用・転入者 計92名	1. 医療事故防止の基礎知識 2. 医療事故防止マニュアルについて 3. インシデントレポートシステムについて 4. 院内感染対策マニュアルについて

医療安全管理研修会	19年5月29日	全職種 計826名	1. ビデオ放映 「アニメで学ぶ医療安全」 2. 平成18年度インシデント報告と医療事故防止マニュアル改訂 3. 過去2年間のアクシデントについて 4. 感染症法の一部改正について
	録画放映 19年11月1日 11月2日	(計147名)	
CVカテーテル挿入インストラクター研修会	19年5月29日	医師 計名	「CVカテーテル挿入に伴う緊張性気胸の診断と対応」
医療安全管理研修会	19年7月6日	全職種 計1100名	「電子機器・情報資産利用についてのモラル」
人工呼吸セミナー（初級）	第1回 19年7月11日	人工呼吸安全対策委員 計25名	初級コース
	第2回 19年11月30日	救命救急センター看護師 計15名	
	第3回 19年12月13日	救命救急センター看護師 計15名	
大学セミナー	19年9月11日	全職種 計58名	講演 「いのちに向かい合う」 内藤いづみ
転入者医療安全・感染管理研修会	19年11月12日	中途採用者・転入者 計15名	1. 医療事故防止の基礎知識 2. 医療事故防止マニュアルについて 3. インシデントレポートシステムについて 4. 院内感染対策マニュアルについて
医療安全管理研修会	19年10月23日	全職種 計201名	1. 医療法一部改正について 2. 医薬品の安全使用について 3. 医療機器の安全使用に関するここと
医療安全・感染管理研修会	20年2月1日	全職種 計1017名	「院内感染の治療と対策 MRSA・MDRPを中心」
医療安全管理研修会	20年3月4日	全職種 計491名	「診療行為関連死亡調査分析モデル事業と事例報告紹介」 「アウトブレイクを防ぐ感染予防対策」

<p>⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) 無) ・ その他の改善の方策の主な内容： <p>院内報告制度は平成 12 年 6 月 14 日から開始した。</p> <p>この報告制度は、医療事故（アクシデント）とインシデントを分けており、報告ルートや報告の様式も別々に定めている。</p> <p>インシデント報告の様式については、厚生労働省の医療安全対策ネットワーク整備事業への参加に伴い、報告様式を改正し、平成 13 年 11 月 1 日から使用している。</p> <p>報告されたインシデント事例は、平成 12 年 12 月にリスクマネージャー会議に設置した「インシデント評価部会」において内容の分析及び対策の立案を行っており、毎月のリスクマネージャー会議の中で、「インシデント情報」として発表・配布している。</p> <p>なお、平成 13 年 9 月からは、「インシデント評価部会」の中で「患者の安全を守るためにの標語」を決定し、約 1 か月の標語としている。</p> <p>また、平成 15 年 8 月から、事故報告を影響レベルごとに分類し、影響レベルが院内規定 3 b 以上（別紙参照）のものについては「医療クオリティ審議依頼書」を提出することとした。</p> <p>さらに、平成 15 年 10 月から、患者さんの確認のポスターの掲示とリスクマネジメントニュースの発行を行っている。</p> <p>このほか、インシデント事例の報告を簡便にすると同時に、事故防止策の立案を早急に行うために、「インシデントレポートシステム」を導入し、平成 16 年 3 月 1 日から運用を開始した。</p> <p>(インシデント評価部会 開催状況 平成 19 年度)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">開催日</th><th style="text-align: right;">担当リスクマネージャー</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年4月18日</td><td style="text-align: right;">医療情報・集中治療部（医師）・9階西病棟・6階東病棟</td></tr> <tr> <td>5月18日</td><td style="text-align: right;">心臓血管外科・総合周産期母子医療センター（医師）・5階東病棟・7階東病棟</td></tr> <tr> <td>6月14日</td><td style="text-align: right;">産婦人科・輸血・移植免疫部・9階東病棟・心身医療科（看護）</td></tr> <tr> <td>7月17日</td><td style="text-align: right;">整形外科・検査部・3階西病棟・外来フロア</td></tr> <tr> <td>8月15日</td><td style="text-align: right;">形成外科・内視鏡診療部・8階西病棟・5階西病棟</td></tr> <tr> <td>9月20日</td><td style="text-align: right;">泌尿器科・病理部・看護部副部長・総合周産期母子医療センター（看護）</td></tr> <tr> <td>10月18日</td><td style="text-align: right;">検査部・皮膚科・4階西病棟・手術部（看護）</td></tr> <tr> <td>11月16日</td><td style="text-align: right;">第三内科・心身医療科・5階東病棟・10階東病棟</td></tr> <tr> <td>12月13日</td><td style="text-align: right;">呼吸器内科・放射線部（技師）・看護部副部長・集中治療部（看護）</td></tr> <tr> <td>20年1月17日</td><td style="text-align: right;">麻酔科・耳鼻咽喉科・10階西病棟・2階北病棟</td></tr> <tr> <td>2月15日</td><td style="text-align: right;">総合周産期母子医療センター（医師）・薬剤部・9階西病棟・6階西病棟</td></tr> <tr> <td>3月13日</td><td style="text-align: right;">眼科・歯科口腔外科・看護部副部長・7階西病棟</td></tr> </tbody> </table>	開催日	担当リスクマネージャー	19年4月18日	医療情報・集中治療部（医師）・9階西病棟・6階東病棟	5月18日	心臓血管外科・総合周産期母子医療センター（医師）・5階東病棟・7階東病棟	6月14日	産婦人科・輸血・移植免疫部・9階東病棟・心身医療科（看護）	7月17日	整形外科・検査部・3階西病棟・外来フロア	8月15日	形成外科・内視鏡診療部・8階西病棟・5階西病棟	9月20日	泌尿器科・病理部・看護部副部長・総合周産期母子医療センター（看護）	10月18日	検査部・皮膚科・4階西病棟・手術部（看護）	11月16日	第三内科・心身医療科・5階東病棟・10階東病棟	12月13日	呼吸器内科・放射線部（技師）・看護部副部長・集中治療部（看護）	20年1月17日	麻酔科・耳鼻咽喉科・10階西病棟・2階北病棟	2月15日	総合周産期母子医療センター（医師）・薬剤部・9階西病棟・6階西病棟	3月13日	眼科・歯科口腔外科・看護部副部長・7階西病棟	年 12 回
開催日	担当リスクマネージャー																										
19年4月18日	医療情報・集中治療部（医師）・9階西病棟・6階東病棟																										
5月18日	心臓血管外科・総合周産期母子医療センター（医師）・5階東病棟・7階東病棟																										
6月14日	産婦人科・輸血・移植免疫部・9階東病棟・心身医療科（看護）																										
7月17日	整形外科・検査部・3階西病棟・外来フロア																										
8月15日	形成外科・内視鏡診療部・8階西病棟・5階西病棟																										
9月20日	泌尿器科・病理部・看護部副部長・総合周産期母子医療センター（看護）																										
10月18日	検査部・皮膚科・4階西病棟・手術部（看護）																										
11月16日	第三内科・心身医療科・5階東病棟・10階東病棟																										
12月13日	呼吸器内科・放射線部（技師）・看護部副部長・集中治療部（看護）																										
20年1月17日	麻酔科・耳鼻咽喉科・10階西病棟・2階北病棟																										
2月15日	総合周産期母子医療センター（医師）・薬剤部・9階西病棟・6階西病棟																										
3月13日	眼科・歯科口腔外科・看護部副部長・7階西病棟																										

計 12 回

医療事故の影響レベル

	レベル	障害の継続性	障害の程度	
インシデント	0	一		エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが患者さんには実施されなかった
	1	なし		患者さんへの実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
	2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性を生じた)
	3a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者さんの入院、骨折など)
	4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
	4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題は伴う
	5	死亡		死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)
その他				医療に関する患者さんからの苦情、施設上の問題、医療機器の不具合・破損、麻薬・劇薬・毒薬の紛失

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染のための指針の策定状況		<input checked="" type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無
(平成19年6月6日 策定、平成20年6月4日改訂)		
<ul style="list-style-type: none"> ・指針の主な内容： 1 感染管理に関する基本的な考え方 2 院内感染管理のための委員会等 3 院内感染管理のための職員研修 4 感染情報等に基づく院内感染管理を目的とした改善方策 5 院内感染発生時等の対応 6 患者等に対する本指針の閲覧 7 その他 		
②院内感染対策のための委員会の開催状況		年12回
<p>平成19年度院内感染対策委員会開催日（毎月第1水曜日定例）</p> <p>平成19年4月4日（水）、平成19年5月2日（水）、平成19年6月6日（水）、 平成19年7月11日（水）、平成19年8月1日（水）、平成19年9月5日（水）、 平成19年10月3日（水）、平成19年11月7日（水）、平成19年12月5日（水）、 平成20年1月7日（月）、平成20年2月6日（水）、平成20年3月5日（水）、</p> <p>・活動の主な内容：ICT年間活動計画（案）の検討、毎月のICT定例会議報告、各種院内感染対策マニュアル（案）及びガイドライン（案）の検討、サーベイランス実施計画（案）の検討、臨床分離菌抗菌薬感受性定期報告、アウトブレイク報告（発生・経過・対策・終息）、職員健康診断未受診者名簿通知、等</p>		
③従業員に対する院内感染対策のための職員研修の実施状況		年15回
<p>・研修の主な内容：新規採用者向けオリエンテーション研修は感染予防策の基礎を、職種別研修は業務に合わせた感染予防策を、全職員向け研修は感染症各論やトピックス的内容をと、それぞれのニーズに合わせて研修を計画している。全職員向け研修は、参加できなかった職員向けに、研修のDVDやビデオを貸し出しチェックリストで理解を確認している。</p> <p>その他、要望により所属内の勉強会にも感染管理者が出張して講師を務め、現場単位の研修も実施している。</p> <p>また、主に新採用者を対象にした、E-learningによる感染管理教育も導入している。（平成17年～）</p>		

看護部中堅プレ研修	19年5月10日	看護部採用2年目 計55名	血管内カテーテル関連感染防止対策について		
医療安全管理研修会	19年5月29日	全職種 計826名	感染症法の一部改正について		
看護助手・臨時職員研修	19年5月30日	看護部看護助手・臨時職員 計18名	院内感染対策の基礎知識		
看護助手・臨時職員研修	19年11月30日	看護部看護助手・臨時職員 計21名	病院感染対策		
院内感染対策研修会	19年9月26日	全職種 計722名	院内感染対策マニュアルについて		
院内感染対策研修会	20年2月1日	全職種 計1017名	「院内感染の治療と対策 MRSA・MDRPを中心に」		
医療安全管理研修会	20年3月4日	全職種 計491名	「アウトブレイクを防ぐ感染予防対策」		
委託職員研修会	20年6月20日	材料部委託職員 計15名	標準予防策と個人防護具		
	20年7月2日	清掃委託職員他 計45名	病院感染対策		
	20年7月13日	清掃委託職員他 計47名			
	20年7月24日	クリーニング委託職員 計10名	リネン取り扱い時の感染対策		
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況					
・病院における発生状況の報告等の整備		((有)・無)			
耐性菌・抗酸菌・血液培養陽性者は、毎日、微生物検査室から感染制御部を経て主治医とリンクナース宛に通知される。感染制御部は患者情報を調査・検討する。					
現場からの感染症発生情報は、アウトブレイク対応マニュアルに従って、24時間体制で感染制御部に報告されることになっている。					
感染症発生状況は、毎月定例院内感染対策委員会と院内感染対策担当者会議、部長会、副部長・看護師長合同会議で報告される。					
・その他の改善の方策の主な内容 :					
* 標準予防策の柱である、個人防護具 (PPE) の使用環境を改善するため、PPE ホルダーの設置を推進している。					
* アルコール製手指消毒剤の使用量アップのため、使用量調査や、採用薬剤の見直しを行っている。					
* インフェクションコントロールチーム (ICT) が毎週1回、院内のラウンドを行い、各部署の感染対策上の不備や改善事項を指導し、現場から対策案の提出を行わせている。この際、現場レベルでは解決できないような問題は、院内感染対策委員会に上げて協議している。					
* 感染予防に役立つ器材のサンプルを取り寄せ、現場で試用してもらって、そのアンケート調査結果を基に、新規診療材料の申請を行っている。(例: 単回使用使い捨て血糖測定用穿刺針の導入)					

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
研修の主な内容 :	1 医薬品の安全使用のための業務手順書（第1版）の説明 2 院内巡視の結果報告 3 医薬品の安全使用のための業務手順書（第3版）の改訂について 4 医療安全全国共同行動について
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
手順書の作成 (有)・無) 業務の主な内容 : 1 院内巡視による再点検と不備な改善 2 注射用カリウム製剤をキット製剤へ変更	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) その他の改善のための方策の主な内容 : 1 注射用カリウム製剤をキット製剤へ変更	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">1 輸血ポンプ・シリンジ等2 初心者研修3 MEの研修等4 人工呼吸器5 新規導入時研修等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 ((有)・無)保守点検の主な内容： 医療機器安全管理マニュアルに従って（厚労省の求める）保守点検を行っております。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)その他の改善の方策の主な内容： 臨床機器に係る情報を集約するため、臨床工学センターとして独立して設置	

* 主には、「医療機器安全管理マニュアル及び実施要領」に掲載している。